

いーぶん

● 素敵なパートナーになるために ●

第5号

平成15(2003)年2月

特集

学校におけるジェンダー



ジェンダーとは

人は、長い歴史の中で作られた「女の役割、男の役割」を幼いころから学習することで、いわゆる「女らしさ、男らしさ」を身につけていきます。この社会的、文化的に作り上げられた性差をジェンダーといいます。

特集「学校におけるジェンダー」

～こんなふうに変わってきています～

1. 身のまわりのもの

男女同じでよいものでも、性別によって初めから色や形が決まっていたものが、今よりも多くありましたが...

体育を例に挙げると、ジャージや体育館シューズなどが、男女別の色から学年色へ移行しています。他に、女子の体操服がブルマー以外に男子と同じ形のハーフパンツを選択できる学校もあります。

今では理由なく、身のまわりのものを男女別にすることは、少なくなってきました。



2. 進路選び

昔は「女の子だから短大ね」「男の子は理系じゃない？」なんてふうにする人が結構たくさんいたのですが...

進路の選択では、「女の子だから、男の子だから」という理由より、本人の希望や、得意分野、将来の色々な可能性を考えつつ、多くの選択肢から自ら進路を選んでいくことが、とても大切です。

職業の性別による固定観念が薄れてきた現在では、特に進路の幅が以前よりも広がってきています。短期大学での男女共学も最近多くみられます。



3. 名簿

出席簿の順番が必ず男子が先、女子が後といった男女別名簿が当たり前で、それを不思議に思うこともありませんでしたが...

いつも男子が先に来る旧来の名簿は、知らず知らずのうちに男性優先意識を身につけさせる可能性が指摘されています。

男女を混合にして50音順の名簿にした「男女混合名簿」や、学年によって男女順を入れ替えた名簿を使うなど、配慮する学校が増えています。

名簿が変わることにより、学校におけるジェンダーを生む『隠れたカリキュラム』が少しずつ学校から減っていくことも期待されます。



『隠れたカリキュラム』

学校における習慣や慣行、教職員の価値観、何気ない発言、行動、態度などから、知らず知らずの間に子どもたちが学習してしまうことを「隠れたカリキュラム」といいます。

例えば、「名簿順で色々なことを行う際、男の子が先であることから、男性優先意識を身につける」「教科書のさし絵から、育児・仕事・地域・家庭など、その場に携わるのがどんな人(性別も含む)かを知らず知らずのうちに学ぶ」などが挙げられます。

4. 家庭科

女子だけが、家庭科を履修していましたが...

平成6年度から「家庭科」は男女同一の教育課程となりました。生活の中で、男女が相互に協力して家族の一員としての役割を果たし、よりよい家庭生活を営むことを重視しています。



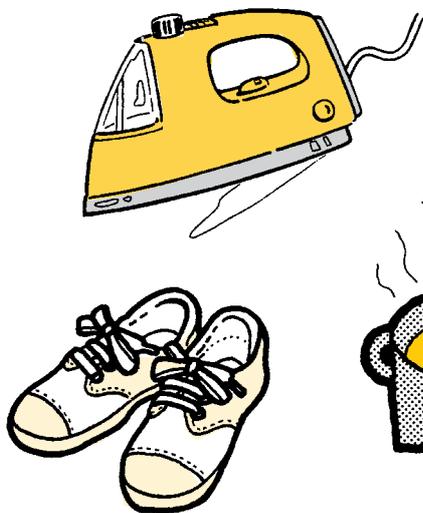
家庭科のワークブックにチャレンジ（高校2年生の副教材）



家庭科の副教材の中には、男女を問わず、家族の一員として『だれもが身につけるべき生活技術』がいっぱいです。下の表の各項目について「自信をもってできる」は5点、「一応できる」は3点、「やり方は知っている」は1点、「できない、知らない」は0点として点数を計算してみましょう。

衣に関すること

- 運動靴を洗う
- アイロンをかける
- ボタンをつける
- 衣替えをする
- 洗濯をする



食に関すること

- 電子レンジを使う
- 食事の後片付けをする
- 食品鮮度を見分ける
- りんごなどの皮をむく
- ご飯を炊く
- みそ汁を作る

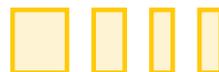


住に関すること

- 戸締り、火の始末をする
- トイレを掃除する
- 蛍光灯を取り替える
- エアコンのフィルターを掃除する
- 振込みを機械でする
- ゴミを分別、捨てる
- ビデオを使いこなす
- FAXを使う
- 荷造り、ひもかけをする



あなたの生活技術は...



0点~30点

<入学前>
まずは、できることからトライしてみてもいい？
意外に簡単な事もありますよ。

31点~60点

<勉強中？>
いま進歩し続けている途中でしょうか？
周囲の人や家族を見て、生活技術の向上を目指しましょう。

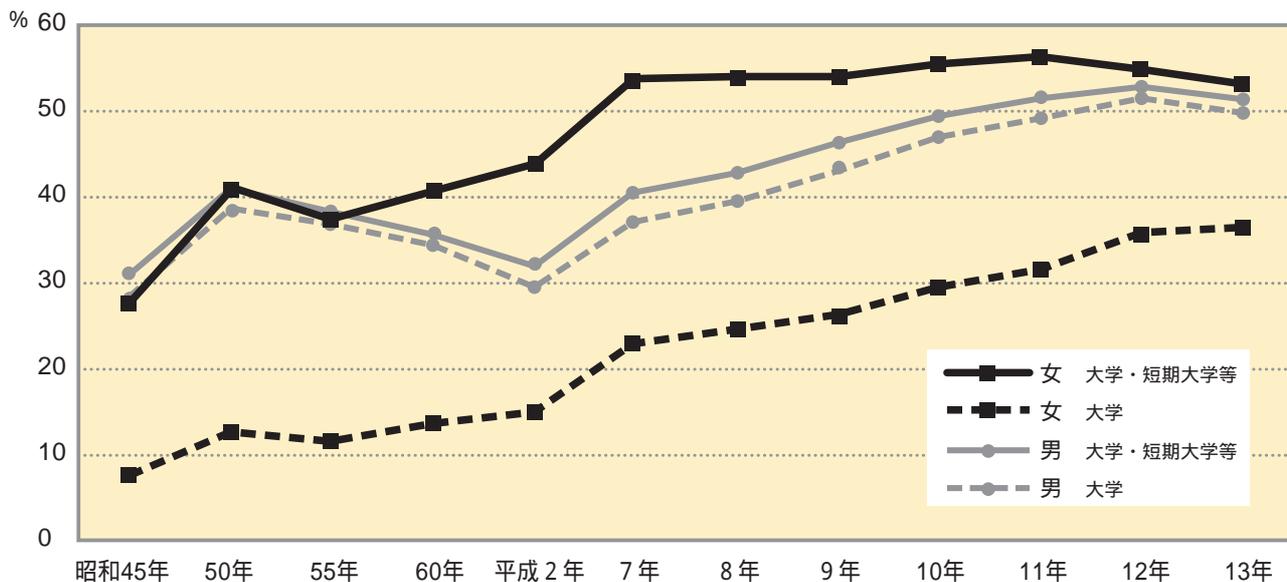
61点~85点

<卒業間近>
大体のことは自分でできる頼もしい家族の一員です。不得意分野をなくして、得意分野を伸ばそう！

86点以上

<立派に独立>
生活技術のスペシャリスト これからはぜひ、後進育成に励んでください。

大学・短期大学等への進学率の推移（愛知県）



(%)

	女		男	
	大学・短期大学	大学	大学・短期大学	大学
昭和45年	27.8	7.4	30.9	28.7
50年	40.7	12.4	41.1	38.9
55年	37.3	11.3	38.1	36.9
60年	40.3	13.4	35.9	34.5
平成2年	43.8	14.9	31.8	29.4
7年	53.4	22.7	40.5	37.0
8年	53.9	24.5	43.0	39.6
9年	54.1	26.1	46.2	43.2
10年	55.4	29.3	49.4	46.9
11年	56.2	31.3	51.4	49.2
12年	54.7	35.7	52.9	51.5
13年	53.2	36.4	51.5	50.2
13年(全国)	47.1	30.4	43.1	41.3

進学者の状況

平成13年3月に高等学校を卒業した人のうち、大学・短期大学等への進学者は、女性18,300人、男性16,953人でした。

高等教育を受ける女性は、男性より多くなっています。

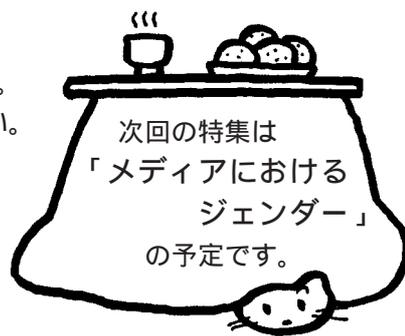
大学・短期大学等への進学率は、平成13年の調査では女性53.2%、男性51.5%で、男女ともに進学率は上昇傾向にあります。

しかし、女性の場合は、大学への進学率も伸びてはいるものの、依然4年制大学への進学率には、男性と大きな隔たりがあります。

資料：県企画振興部「あいちの学校統計」
文部科学省「学校基本調査報告書」

編集後記

『いーぶん』第5号をお届けします。
発行にあたり、ご協力いただいた皆様方に厚くお礼申し上げます。
『いーぶん』に対する、ご意見・ご希望を下記までお寄せください。
編集協力者/岡西 よし子、横井 秀子、吉田 和江、伊藤 孝司
編集・発行/一宮市企画部企画政策課
〒491 - 8501 一宮市本町2 - 5 - 6
TEL 0586 - 73 - 9111(内線 2113) FAX 0586 - 73 - 8034
eメールアドレス kikakuseisaku@city.ichinomiya.aichi.jp



『いーぶん』は再生紙を使用しています。